

第1回山国t作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年7月14日 13時30分～15時00分

開催場所: 山国社会福祉センター 多目的室

参加者数

グループ	A	B	C	D
参加者数	9	9	6	7

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定:
事務局より挨拶。
- 事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- グループワークの趣旨説明と自己紹介:
事務局より、作業部会の進め方として、参加者が居住地域の自慢や個人的な体験を共有する形式が提案され、正解や間違いのない自由な意見交換が推奨された。参加者はテーブルごとに自己紹介を行い、居住地域の魅力や自身の活動について発表することとなった。
- 参加者から、自己紹介とともに自身が携わっている地域活動の詳細が共有された。
- ワークショップ①
ワークショップで使用する「りんごの木」という視覚的ツールの見方が説明されました。地面の「お花」には地域の良いところや社会資源を、人型アイコンには住民を、ピンクの「りんご」には住民にとって住みやすい地域のアイデアを、黄緑の「りんご」には高齢者や外国人住民など自分たちとは違う属性の人達にとって住みやすい地域のイメージを記入するというルールが示されました。
- 各グループにて、りんごの木をさらに充実させるための討議が行われました。特にりんごの部分を中心に話し合うことが求められ、参加者は地域に足りない仕事や人材、さらには地域で利益を生むための野菜作りなど、多様な意見を付箋に書き出し、木に追加していきました。
- グループワーク②
グループワークで出された意見を、「つながり・支えあいのあるまち」、「安心・安全

のあるまち」、「暮らしを支えるサービスが充実したまち」、「地域が元気になるまち」の4つのカテゴリーに分類する作業が行われました。各テーブルで仕分けされた付箋(りんご)を、ホワイトボードに掲示して全体で共有する準備が進められました。

- 次に事務局は、参加者に対して「りんご」と称される付箋を整理する作業の手順を説明しました。各グループは、付箋を同じジャンルごとに縦1列に並べた後、その内容を表すタイトルを考え、タイトルを付箋の上の段に配置するよう指示を受けました。作業時間として15分が設定されました。
- **カテゴリー1: つながり・支えあいのあるまち**
主な内容として、外国人や移住者との交流の場、サロンや話し合える場所の確保、世代間交流を目的としたイベントが挙げられました。また、地域行事の継承、子育て世帯を支援する放課後塾(寺小屋)、楽しい老後を送るための施策、グループ活動への助成金の充実、そして認知症への理解と見守りの重要性が強調されました。
- **カテゴリー2: 安心、安全のあるまち**
主な内容として、充実した医療体制や、子供を気軽に預けられる施設、シェアハウスの設置が挙げられました。また、高齢者や子供の安全を守る交通安全対策、高齢者の就労支援、認知症にやさしいまちづくり、街灯の増設による防犯対策の強化も挙げられました。さらに、外国人との共生、情報発信の強化、そして近年増加している水害被害を踏まえた防災意識の啓発が重要課題として挙げられました。
- **カテゴリー3: 暮らしを支えるサービスが充実したまち**
買い物支援の重要性が指摘され、具体的な解決策として「コメリ山国店」の誘致が提案されました。また、病院へのアクセスを確保するためのデマンドバスなどの移動手段の確保、若者の流出防止と定住促進に向けた空き家や市営住宅の有効活用、そして安心して暮らせる住環境整備と外国人にも優しいまちづくりが挙げられました。
- **カテゴリー4: 地域が元気になるまち**
主な内容として、空き家の管理や若者の移住促進による田舎づくりが挙げられました。また、地域行事や祭りの復活、地域リーダーの育成、観光地の開発、休耕地の活用、働く場の創出といった活性化策のほか、住民の健康維持や、独身者の出会いの場の創出といったアイデアも出されました。
- **ワークショップの総括と次回への展望**
事務局は、本日の全行程終了を宣言し、参加者へ感謝を述べました。次回は、今回決定した内容を具体化し、より住みやすい地域にするための検討を行う予定です。また、社会福祉協議会の常務理事が挨拶を行い、参加者の温かい雰囲気と地域の活力を評価し、次回の継続的な参加を奨励しました。